

自宅療養最多54万人超

厚労省 急変時の入院調整 影響

厚生労働省は十四日、新型コロナウイルス感染による全国の自宅療養者が、九日午前零時時点で五十四万三千四十五人となり、過去最多を更新したと発表した。五十万人を突破したのは初めて。一週間前の二日時点と比べ十万人以上増えた。オミクロン株の感染拡大が続いており、保健所などによる健康観察や急変時の入院調整に一層影響が出そうだ。

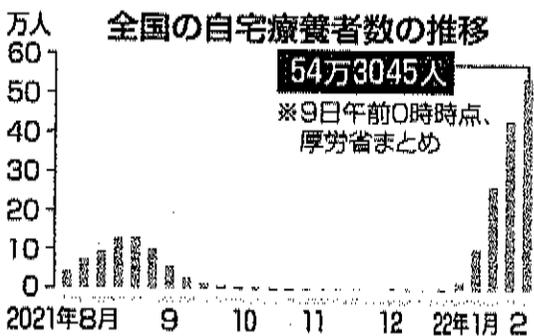
九日時点の都道府県別の新型コロナウイルス患者向け病床使用率は、二十都府県で50%以上だった。大阪の81%が最も高かった。重症者用に

は前週比約十七万人増だったが、九日時点では増加ペースは鈍化した。都道府県別では、東京の八万一千三百六十八人が最多。次いで神奈川の六万三千百五人だった。大阪(四万四千六百八十六人)、福岡(四万四千三百三十五人)、兵庫(四万二千四百三二人)で四

自宅療養者とは別に、病院や宿泊施設といった療養場所が決まっていない「療養先調整中」の人は二十四万三千三百四十三人だった。うち、入院が必要なのに受け入れ先医療機関が決まっていない人は三千四百十五人。二日時点は四千三百八人だった。

高齢者施設などの社会福祉施設で療養している入所者は四千四百二十一人。一週間前より約千六百人増えた。

厚労省は都道府県の報告を基に集計した自宅療養者や入院患者、病床の数を毎週公表している。



厚生労働省は十四日、米ファイザー製の新型コロナウイルスワクチンについて、今年三月までに一千万回分を追加購入することで、同社と合意したと発表した。後藤茂之厚労相は「三回目接種をより一層着実に進められるよう、政府として引き続きワクチンメーカーとの交渉に取り組み」と述べた。ファイザー製を巡っては、既に今年分として一億二千万回分の供給を受ける契約を結んでいる。

三月までの輸入量については、当初三千万回分ほどを見込んでい

ワクチン1000万回分 追加購入 厚労省、米ファイザーが合意

た。今回、追加購入分に加えて、六百万回分が新たに前倒しして輸入されることになったといい、計千六百万回分が上乗せされるとしている。後藤氏は報道陣に「特に高齢者施設は、入居者本人や医療体制への影響を極力軽減するためにも、今月中に接種を終えられるようお願いしたい」と強調した。

このほか政府は、米モデルナ製を三回目換算で九千三百万回分、米ノババックス製を一億五千万回分、それぞれ今年供給を受ける契約を結んでいる。